

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900205		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	ぐるーぷほーむ「せきがみ」		
所在地	秋田県鹿角市十和田大湯字前田29		
自己評価作成日	令和05年08月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和5年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中庭には畑があり、苗を植えるところから入居者様と一緒に、野菜の収穫もして頂いております。入居者様が季節を感じながら楽しく過ごして頂けるよう対応させて頂いております。また同法人の特養、系列法人の医療機関との連携が整備されており安心できる環境となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲には田んぼが広がり、また中庭の木々や花、畑から四季を感じることが出来る。同法人の老人福祉施設や医療機関との連携が安心できる生活につながっている。コロナ禍であっても、利用者がストレスを抱えることなく楽しく過ごせるよう工夫し外出したり、行事に力を入れたりしている。またお風呂が深いため心配だとの職員の意見に対し、手摺りを設置したり、置き石で段差の解消を図ったりしていた。それぞれの職員の意見を大事にすることで、職員の働きがいや定着が図られるとともに、サービスの質の向上へつながっている。誕生日は一人ひとりをお祝いし、食事や排泄、入浴など全ての支援が個別の対応となっており、利用者一人ひとりを大事にしているホームである。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を元に自分達で年1回目標と位置づけ理念を作成しております。「笑顔で過ごします」を実践しています。ホーム内に張り出し再確認しています。	年に1回職員全員で話し合い、利用者のニーズや状況により理念を具体化した目標を掲げている。どういうところで暮らしたいかと利用者の立場で考え、今年度の目標を「笑顔で過ごします」とし、コロナ禍でも、行事や感染対策をしながらの外出を工夫しながら実践している。ホーム内に掲示されていた写真には「笑顔」が溢れていた。	毎年理念を元にその時の状況に合わせた目標を掲げ頑張っていることを確認した。職員は認知症実践研修やリーダー研修で学びを深めている。更なるステップアップとして利用者が地域でその人らしく暮らし続けられるよう、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念について検討する機会に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の為行事、避難訓練には参加して頂いていない。ご近所さんから季節の果物や野菜を頂いている。	コロナ禍で行事などへの地域の方の参加はないものの、野菜や果物の差し入れがある。十八駅伝を沿道で応援するために、地域の方々が草刈りをしてくれ、地域の協力体制ができている。また、認知症カフェを始め、認知症について話したり、相談を受けたりなど地域との相互関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェ、運営推進会議などを利用し伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況や行事の報告を行っている。頂いた意見は職員全員で共有している。	事業所からの報告と共に、地域での課題なども出し合い、それぞれの立場から情報の共有が行える場になっている。避難訓練に実際に立ち会っていただき、方向が分からない人が安全・迅速に避難することができるよう椅子が必要なのではないかと、運営推進会議の中で意見が出され、それがサービスに反映されていた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の訪問がある。家族の金銭的不安や、入院時の困りごとなどを相談させて頂いた。	入居にあたり契約したものの金銭的な不安があり、生活保護に相談した上で入居された利用者もいる。困難事例について相談、助言してもらうなど懇意の関係にある。2ヶ月毎に開催されている市のGH連絡会には市の職員も参加してくれている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠も出来る限り施錠しないよう努めている。	身体拘束の事例はない。研修など勉強会を通じ、身体拘束の弊害など学びを深めている。玄関は施錠せず、外に出ようとする利用者には、付き添うなどの対応をしている。身体拘束の適正化に向けた対策会議も定期的で開催し、職員に周知を図っている。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている入居者様を通じ少しずつ理解するよう努めている。職員から勉強会したいと要望もある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問をよくお聞きし説明させて頂いている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	来訪時意見や要望を聞いている。	利用料金の支払時や受診の報告時など、声掛けをしながら、意見を聞き取るよう努力している。薬の副作用の紫斑が、虐待のためではないかと家族の不信感につながったケースや排泄用品のストックについてなど様々な意見が上げられ、都度真摯に丁寧に対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	管理者から法人本部へお伝えしている。	管理者は、現場職員の意見を大事にしている。職員が意見を出せるよう、声掛けなど工夫をしている。中庭に自由に行き来できるようウッドデッキを作ったり、お風呂の段差を解消したり、引き出された意見は、豊かに安心して暮らせる生活へつながっている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会があり会議にはZOOMにて参加している。職員同士の交流は出来ていない。		
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談などで不安や要望を伺い安心できる関係づくりに努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや意見、要望を伺い協力できる関係づくりに努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という思いで対応させて頂いている。人生の先輩であることを忘れず色々な事を教えて頂き支えあっている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし信頼して頂けるよう努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	家族や友人からの電話やハガキ、手紙のやり取りをしている。	2ヶ月に1回居室担当が手紙や写真などを送っている。チームで担当制としており職員個々の負担軽減につながっている。また、インスタグラムは家族から好評とのこと。馴染みの風景や季節を感じてほしいと、感染対策をしながら毎月のようにドライブをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重しつつ、孤立しないようお互い関わり合えるよう支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談や支援に努めている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いを聞き取り沿えるよう努めている。	普段の会話の中から思いを把握するよう努めている。認知症により会話が難しい場合も生活歴から把握するなど、思いや意向が一人ひとり違うことを職員は認識している。そのために声掛けの仕方を本人の視点に立って常に振り返っている。訴えがない利用者から「ラーメンが食べたい」との思いを引き出し、実現したケースがあった。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族からの情報などを把握し理解するよう努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	居室担当を決め意見を出し合っている。入居者様、ご家族より意向を伺い介護計画を作成している。	利用者や家族、職員全員の意見を反映し、個別の介護計画を作成している。また、本人の状態や思いに変化があった際には、現状に即した介護計画の見直しをしている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別経過を記入しミーティングで意見をだしあい介護計画の見直しに生かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症のため出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様、ご家族の希望を尊重している。かかりつけ医や薬局の変更は相談して決めている。	かかりつけ医を継続している利用者もいるが、系列の医療機関の希望など本人や家族と相談し支援している。医療連携により1週間に1回看護師の訪問がある。また、看護師に連絡すると医師に相談し助言をもらうことができる。予防接種は、医師が来所しホーム内で行っている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に状態の報告をしている。又受診の相談や助言を頂いている。担当看護師直通の電話もあり気軽に相談できる。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者との情報交換に努めている。緊急時に対応できるよう総合病院と契約している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約やケアプラン説明時に行っている。同法人に特養系列の法人に医療機関があり連携している為スムーズに対応出来ている。ご家族と相談しながら対応している。	看取りのケースはない。契約時に説明しているが、段階的に話し合いを行い、必要に応じた治療や支援が得られるよう対応している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の動き方をミーティングで確認している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い身につけている。地域の方々とは、コロナ感染症のため実践出来ない。	日中・夜間想定火災訓練や水害訓練など同法人の施設と合同で行っている。実際に地区の避難場所に避難するなど、実践的な訓練から振り返りを行っている。避難経路も3方向にあり、備蓄も用意され、各居室入り口には避難したことが確認できるタッチライトを設置している。BCPは策定済みで、BCPを職員に説明しながら感染症の訓練を行った。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや対応に気を付けている。必要に応じてミーティングでも話し合いをし再確認出来ている。	上から目線とならないよう言葉遣いに注意し、利用者の表情なども確認しながら、職員が声を掛け合い対応している。また、排泄介助等羞恥心に配慮できるよう研修にて理解を深めている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿いながらその人らしさを心がけている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、野菜切、テーブル拭き、食器洗い、食器拭きを手伝って頂いている。	中庭の畑で利用者と職員と一緒に育てたトマトやキュウリ、すいかなどが食卓にあがっている。季節を感じてもらえるよう旬の食材を意識して調理している。一緒に漬物を漬けたり、テーブル拭き、食器洗いなどそれぞれが役割を担うことが利用者の心の張り合いとなっている。外注の弁当や職員手作りの弁当で雰囲気を変えたり、利用者の希望を取り入れたりすることで、利用者の楽しみにつながっている。誕生日には手作りケーキで一人ひとりをお祝いしている。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	麺類を好まない方にはご飯を提供している。水分を取らない方には好みのジュースや手作りの寒天を提供している。食事の摂取量は職員で共有しているノートに記入している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけにて毎食後行っている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを共有しリハビリパンツから布パンツを使用している。パットの大きさも考え対応している。	排泄量や水分量などをノートに記入し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。それにより、リハビリパンツから布パンツに変更できた事例もある。排泄用品を変更するなど個別の支援を行っている。トイレの場所がわかるように貼り紙をしたり、あからさまな声掛けをしないなど配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルト、昼食には手作りの寒天を提供している。野菜を多く撮れるよう心掛けている。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	湯の温度は利用者の好みで対応している。	最低週2回、本人の希望で入ってもらっている。毎日入浴も可能で、曜日で入浴日を決めていない。入浴拒否時は、無理強いせず日にちを変えたり、職員を変えたり、声掛けの仕方を変えたりなど対応している。好みのお湯の温度に調整したり、ラジカセをかけたり、入浴剤を使用したりと一人ひとりの好みに配慮している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファー自室等で自由に休息されている。夜間は室内の温度や掛物に気を配っている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についてわからない事はかかりつけ医、薬局、医療連携の看護師に相談し理解するようにしている。状態の変化は受診時報告している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来る仕事を張り合いにして下さっている。(食事の片づけ、草取り、野菜の収穫)		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるようドライブや十八駅伝の応援などの外出をしている。駅伝を見るところを地域の方々が草刈りをして下さり協力して頂いている。	中庭には自由に行き来でき、木々や野菜など四季の移ろいを感じながら散歩ができる。毎月ドライブを行っており、また十八駅伝ではおそろいのユニフォームを着て応援する等した。毎日病院に行きたい利用者があり、在宅時は1日に3～4回病院に行っていたとのことだが、現在は月1回は行けるよう対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは個人で現金を持たないようにしている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節感のあるものを手作りし飾っている。又中庭の花や畑を見たり収穫したり季節を感じて頂いている。	天井が高く開放感があり、梁や障子が落ち着いた雰囲気をかもしだしている。遊びに来る法人の犬や、熱帯魚が癒やしにつながっている。北棟、南棟自由に行き来ができ、廊下にテーブルや椅子を設置することで、その時々で好きな場所で過ごすことができる。手作りの日めくりカレンダーや季節の貼り物などで時の見当識に配慮している。	エアコンの設置有無により北棟、南棟の温度差を感じた。コの字型の建物の構造上、場所により温度差もあると思われる。が、室温計はホール1カ所ではしか確認できなかった。高齢者は体温調節機能が低下しやすく、暑さも感じにくい。今年の猛暑から環境の管理や整備について検討することに期待したい。
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、廊下にはベンチ、椅子、テーブルを置きつろげる空間づくりを心掛けている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が作ったものを飾ったり馴染みの家具を置いたりしている。	自宅より仏壇、位牌、写真、たんすなどを持ち込み、その人らしい落ち着いた空間となっている。立ち上がりが容易でなくなった際には手作りのベッド柵、またストーブの温度調整に触ってしまう利用者にはストーブガードを設置、ベッドからの立ち上がり時滑らないよう滑り止めマットを敷くなど、状態に合わせ安全に暮らせるよう配慮している。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には手作りの名札、トイレなどの表示は入居者の目線に合わせるなどの工夫をしている。ホームには手すりがあり安全に配慮している。		